

令和元年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【2年目】

P T A名	天竜特別支援学校PTA
学 校 名	静岡県立天竜特別支援学校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input checked="" type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	69人

1. 使用状況

寄贈物品名	締太鼓
使用学年及び人数	小中高等部(69人)
使用頻度	小・中・高等部とも音楽科の授業 中学部は8月下旬から10月15日までの間、ほぼ毎日
使用状況	小・中・高等部とも音楽科の授業で、「日本の伝統楽器」に触れる単元の中で、さらに中学部は10月15日(金)に学校行事の一つである文化祭で、和太鼓演奏で使用した。
物品の使用による変化や効果	2年目は、中学部だけでなく、小・高等部も音楽科の授業で使用した。小学部の児童には、いくつかある和太鼓の中で、新しく且つオレンジの縄がきれいな締太鼓が、一番魅力的に見え、だれが最初に締太鼓を打つか、じゃんけんで順番を決めたほどであった。児童からは「音がきれい。」「たたくと(ばち)跳ねる。」などの感想があった。中・高等部の生徒は、様々な和楽器に触れながら、締太鼓の音の良さなど各々感じ取ったことを発表した。さらに、中学部は、昨年に引き継ぎ、文化祭で使用し、練習時から発表当日まで、既存の締太鼓で出すことができなかった軽やかな高い音を校内に響き渡らせることができた。児童生徒にとって、寄贈していただいた締太鼓に触れたことで、学習意欲が高まり同時に学習効果も上がった。
今後の活用の見通しや課題	一昨年までの締太鼓は、かなり古く、音の調整をしても、締太鼓が持つ高い音が出ないため、他の和太鼓と演奏をしても全体的に音が低く、音のメリハリが見られなかった。そこで、スズキ教育文化財団特別支援学校支援事業に申請をした。新しい締太鼓を使うことで、本来、締太鼓が持つ軽やかな高い音を児童生徒が直接感じたり、他の和楽器との演奏でも音のメリハリが出て、華やかな演奏をしたりすることができた。今後も、授業や文化祭等で計画的に使用していく予定である。
その他希望や所感など	

2. 活用の様子



小学部 音楽科の授業『日本の伝統楽器に触れよう』



中学部 文化祭『和太鼓演奏』